



解体・新築方針が示された掛合体育館



解体方針が示された大東体育文化センター

# 議会 報告 瑞風

発行  
中林たかし事務所

雲南市加茂町神原 733-4  
電兼FAX 49-6373



## 12月定例会12<sup>6</sup>～12<sup>20</sup>

12月定例会が12月6日から開会され、観光庁の補助事業として採択された吉田町の旧若槻屋の改修など宿泊施設の高付加価値化改修事業にかかる7111万円、人事院勧告に基づく職員給与の改定9292万円、有害鳥獣捕獲事業439万円などを審議、可決して20日閉会しました。補正後の一般会計予算の総額は334億3921万円となりました。

## 3体育館の整備方針

石飛市長は所信表明で「掛合体育館は吊り天井の改修など費用が高額となる上、それに見合うだけの長寿命化が望めないことから解体・新築の方向で進めることとした。解体に係る設計委託費を今議会に提出した」と述べ、新築方向で整備を進める方針を明らかにしました。

その他、大東体育文化センターは、耐震性能が劣るため改修は行わず取り壊し、また、木次体育館は木次中学校の建替え計画があり、場所等の検討を踏まえて方向性を示す、とのことです。

## ラメール大規模改修20億円

12月14日の教育民生常任委員会ではラメールの大規模改修計画が示されました。築後30年を経過、雨漏りや空調設備の老朽化など劣化が進んだため大規模改修に踏み切るものです。

工期は令和6～8年の3カ年、全体事業費は凡そ20億円（外内装3億円、空調11億円、舞台設備6億円）程度の見込みです。解体・新築すると約50億円、改修では20億円で安上がりとの試算です。

今後、雲南市では小中学校の建替え等大規模財政支出が目白押しで健全財政を睨みながら綱渡り状況が続きます。

## 順調なふるさと納税、課題も

ふるさと納税制度による寄付金は年々順調に推移し、令和5年度は当初見込みの3億9440万円に対し、現時点の見込み額は4億7700万円です。

一方、本年10月から、ふるさと納税制度の運用基準が厳格化されたこと（返礼品の価格は寄付額の3割以下、経費等を含め5割以下に抑える、米や肉の原材料の産品基準等）により、今まで雲南市の返礼品として取り扱われていた一部の商品が該当しなくなるなどの影響も出ています。ル

ールが厳格化されても雲南市には全国に誇れる産品が多くあります。苦しい財政状況の救世主として、ふるさと納税を官民挙げて取り組む必要があります。

## 木次線シンポジウム10<sup>29</sup>

雲南市議会木次線活性化促進議員連盟は、奥出雲町議会と共催で「木次線は誰のもの」と題して木次線シンポジウムを開催しました。



10月29日 加茂町ラメールで開催した木次線シンポジウム  
パネラーは左から土屋武之氏、江上英樹氏、飯野公央氏、中林

パネラーは、木次町にルーツがある鉄道ライター土屋武之氏、小学館元編集長の江上英樹氏、島根大学法文学部教授の飯野公央氏です。

飯野氏からは「近鉄は売上の半分以上を本業以外から上げておりJRも努力が必要。また、国の予算は道路に比べ鉄道への配分が極端に少ない」、江上氏からは「スッチバックは資産だ。世界中から人を呼び込みたい」、土屋氏からは「鉄道がもたらしている価値や利益を考えよう、価値や利益がある所に人は集まる」との発表がありました。

また、参加者から「木次線の存在意義を明確にして住民の意識を図ることが重要」「JRはトロッコ列車の老朽化を理由に運行を止めた、老朽化を言い訳に木次線を廃止しようとしているのでは」「定期券購入に補助金を出したら通学手段が父兄の送迎から公共交通にシフトした、父兄の負担が減って仕事に回せる時間が出来た」「木次線は自分には関係ないと思っていたが真剣に考えなければならぬ」などの意見があり有意義なシンポジウムでした。

## 大東高校寄宿舎整備へ

大東高校の1学年当たりの定員が来年度から90名に削減されることになっています。このため、雲南市としては、これ以上の生徒数の減少を避けるため遠方からの生徒の受入れ環境を整備する必要がありますと判断したものです。

大東町南本町地内の住宅を確保、改修し来年4月の供用開始を予定しています。生徒10人程度の生徒を収容する寄宿舎として1620万円をかけて整備します。遠方からの入学者の確保も必要ですが、地元からの進学者が一番です。

## 和牛共進会報告会12<sup>5</sup>

12月5日、和牛共進会雲南市代表出品報告会が開催されました。子牛共進会の部では、三刀屋町の藤原英利さんの「ゆり号」が第2区優秀賞首席でグラントチャンピオン賞を獲得されました。種畜共進会の部では、大東町の門脇久幸さんの「さちふく74号」が成雌牛区優秀賞3席の成績でした。受賞者の皆様おめでとうございます。

令和9年には北海道十勝地方で第13回全国和牛能力共進会北海道大会が開催される予定です。昨年の鹿児島大会において肉質一番の成果を収めたように奥出雲和牛の名を全国に広められるような立派な成績が期待されます。